

ブドウ「オリエンタルスター」の省力的房作り

利用対象：ブドウ栽培農家、観光ブドウ園を経営する農家

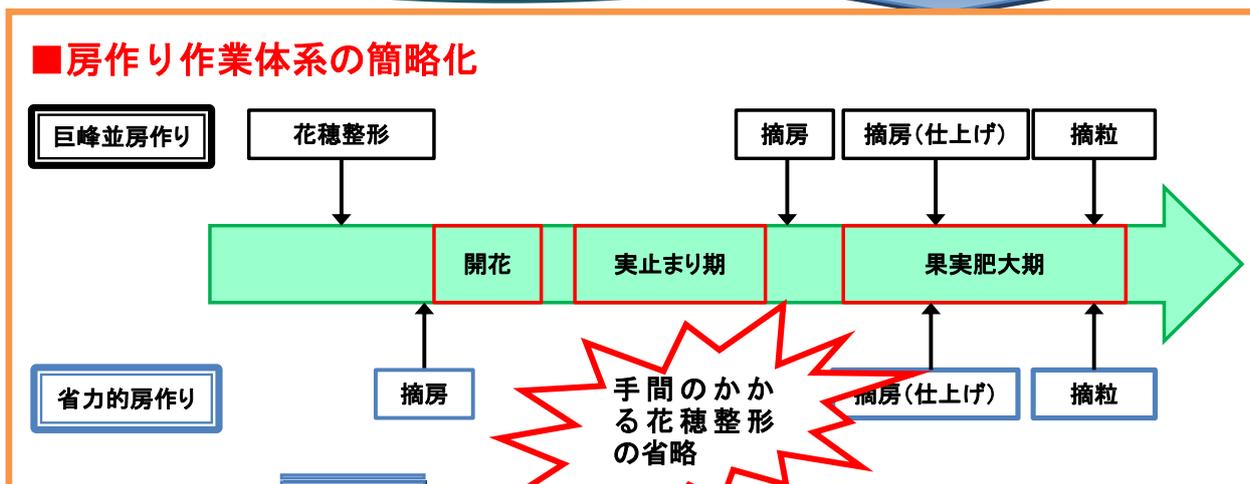


ブドウ栽培における花穂整形、摘房、摘粒にかかる時間は膨大なうえ、作業適期は短い。



「オリエンタルスター」は、花振るい性が弱く、実止まりが非常に良い。

結実特性を活かした省力栽培



■花穂整形の省略により適度な着粒密度の房になる

摘粒作業の大幅な省力化

■房作りの省力の効果

(時間/10a)

	花穂整形	摘粒	合計(対比)
巨峰並	50	96	146 (100)
省力的	0	52	52 (35.6)

省力的房作りでは花穂整形と摘粒に要する作業時間が巨峰並房作りの40%以下となる。

巨峰並房作りに比べて、省力的房作りでは、**60%程度省力できる。**

* 10aあたりの摘房前花穂数を15,000個、摘房後の花穂数を5,000個とした場合

1. 背景とこれまでの課題

ブドウ「オリエンタルスター」は、晩生の黒色品種で県内の観光ブドウ園を中心に導入が始まっています。この品種の特徴は、花振るい性が弱く非常に結実が良いところです。そのため、「巨峰」並の花穂整形を行うと着粒密度が高くなり、摘粒作業に多大な時間を要します。また、花穂整形作業はブドウ栽培の労働時間に占める割合が大きいため、作業の省力化が求められています。

そこで、「オリエンタルスター」の有核栽培において花穂整形作業を省略し、摘房と摘粒のみで房作りをする省力的な房作り技術を開発しました。

2. 成果の概要

- (1) 「オリエンタルスター」の省力的房作りは、花穂整形をせずに、摘房と摘粒のみで房作りを行います。通常摘房は実止まり後と果実肥大期に行いますが、本技術では開花前と果実肥大期に行います。なお、摘粒は従来と同時期に行います。
- (2) 省力的房作りでは、花穂整形にかかる作業時間が削減され、さらに、花穂整形を行わないことで、着粒密度が低下し、摘粒作業がしやすくなることを併せて全作業時間の60%以上を省力化できます。
- (3) 通常栽培では結実を確認した後の摘房作業において、房型の見極めに経験が必要ですが、省力的房作りではこの作業が不要となり着果量調整の摘房を機械的にできるため、熟練者以外でも作業が可能です。
- (4) 省力的房作りを行った果実は、「巨峰」に準じた房作りで得られた果実と同等の果粒重、糖度、酸含量となり、品質に大きな問題はみられません。

3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

- (1) 省力的房作りを行うことで、作業時間を短縮でき、それにかかる人手やコストを低減できます。
- (2) 新植や改植を検討する際に、本技術を導入することでオリエンタルスターは省力栽培向きの品種候補となります。

4. 普及上の留意点

- (1) 花穂整形を行わないので仕上げ摘房までの期間は通常栽培に比べ大きな房が着生したままとなり、樹体への負担が大きくなります。樹勢維持のために、仕上げ摘房と摘粒を早期に行う必要があります。
- (2) 着粒密度が低くなるため、最終的な房型は粗着な小房に仕上がります。

お問い合わせ先	伊賀農業研究室 中央農業改良普及センター	近藤宏哉 村田博則	電話 0595-37-0211 電話 0598-42-9707
参考になる資料			
研究実施予算	県単		